

Maybe on a broader scale, I think the notion that there is this American dream, that one can come and work hard and achieve a better life, is probably a good way of explaining what holds us together, even for natural born citizens.

より広い意味では、「アメリカン・ドリーム」と言われるものがあるという意識、つまり、誰もがここに来て一所懸命努力すれば、よりよい暮らしを手に入れることができるのだという思いが、おそらく、「アメリカをひとつにまとめているのは何か」ということのよい答えになると思いますね。ここで生まれた人にとつてすら、そうだと思いますね。

on a broader scale より大きなレベルでは

慣用表現 scale は「等間隔で区切られたもの」というのがコアの意味です。そこから「目盛り」、「ものさし」、「等級」、「音階」など色々な意味で使われます。また、ものごとの「規模」という意味でも使われ、on a large scale 「大規模に」、on a small scale 「小規模に、控えめに」のように言います。

the notion that there is this American dream, that... アメリカン・ドリームがあるという意識、つまり...

パターン構文 ここは the notion ...is probably a good way という文の主語 the notion の後ろに that で詳しい情報が挿入されて、主語の長い「頭でっかち」の文になっています。「the notion 意識」とシンプルな名詞で置いておいて、「...that there is this American dream アメリカン・ドリームがあるという(意識)」と二つ目の that で説明したあと、「アメリカン・ドリームがある、と言うのがどうということなのか」をさらに詳しく、三つ目の that (one can ...) で説明してくれています。述語動詞 is が随分後ろになってようやく出てくるため、聞き取りで構文を見失いやすいかたちですが、シンプルな名詞の後ろには修飾節などで詳しい情報が足されてくる可能性が高い！ しかも、修飾節などの詳しい情報が1つとは限らない！ ことに慣れておくことで、構文をしっかり追って聞けるようにしましょう。

what holds us together

パターン表現 to hold ~ together で「~を一緒にの状態を持つ、保持する」という意味ですから、what holds us together で、「国をひとつにまとめているもの！」という意味の名詞の固まりになります。

natural born citizens (移民ではなく) アメリカ生まれの国民

I mean everyone for the most part feels that we're not all going to be the same economically. That will never happen. But, there's an effort in this country to reduce all the barriers that there might be in anyone wanting to improve their life, their quality of life.

もちろん、誰もがおおかた、経済的には皆が同じになることはないと感じていますよ。そんなことは、起こりっこないです。でも、この国には、自分の人生や暮らしをよくしようとする人の前に立ちちはだかる可能性のあるあらゆる壁を少しでもなくそうとする取り組みがあるのです。

I mean もちろん

口ジック これ以降は、直前に述べた「“努力すれば、誰でも暮らしをよくすることができる”というアメリカン・ドリームへの信念が国をひとつにまとめている」といったことについて、「誰でも言うけど、そんなことできっこないじゃないか」、「現実のアメリカは全くそうじゃないじゃないか」という当然の反対意見が聞こえてきます。そのような意見それぞれに、<挿入>で言及して、自分の言っていることをより丁寧に説明していきます。ひとつめの説明への転換は I mean ...がヒントになります。

for the most part おおかた、概して

going to be the same 必ず同じようになる

やまと言葉 be going to...の感じは、「ルールに乗ってその方向に進んでいる」感覚ですから、「必ずそうなる」という響きになります。ここは we are not all going to be the same 「私たち皆が、必ず同じようになるのではない」という意味になります。

But

ロジック

「特に経済面で、誰もが全く同じになれるとは皆も思っていないですよ」という挿入から、おなじみの but で、より言いたいポイントに戻り、どういう意味で言っているかを説明してくれます。「自分の暮らしをよりよくしようとする上での障害を少しでも取り除こうという取り組みがある、そういう信念がある」と言っています。

the barriers 障壁、障害

やまと言葉

a barrier のコアの意味は、「進もうとする行く手を阻むもの」という感じです。そこから、「障害」、「障壁」、「防壁」など色々な意味で使われます。

It's, you know, an ideal. In practice there's a lot of barriers for minorities. But all I can say is we're working on that.

言うまでもなく、理想です。現実には、社会の少数グループの人たちにはたくさんの壁があります。でも、少なくとも言えることは、私たちが努力しているということです。

It's an ideal. In practice ... (確かに)それは理想です。現実には・・・

ロジック

「(確かに)それは理想です、というも現実には、まだまだマイノリティーには壁がある」と認めました。理想の話をするときに、「an ideal 理想」「in practice 現実、実際」、「in reality 現実」などの単語を使い、「理想」と「現実」を対比して話すことがよくされます。慣れておきましょう。

minorities 少数派、マイノリティー

語彙

「社会の中での少数派」を指します。

But we're working on that でも、私たちは努力しているのです

慣用表現

to work on ~ は、on 以下のものに「取り組む、努力する」という意味です。

ロジック

「確かにそれは理想で、現実には・・・」と認めて、but でまた自分の言いたいポイントに戻ります。「でもたゆまず努力を続けている」、つまり、「その信念は健在で、信念のもと取り組んでいる」と言っています。

I mean if you look back 50 years ago, it's night and day, and I'll tell my daughter, my younger daughter, the way things were, you know. "Something happened in the 1940s," and she is just astounded. You know. I mean, to say that the blacks were not allowed to go to the same schools, she just doesn't get it. It's like "That doesn't make any sense."

というのも、50年前を振り返ると、まるで夜と昼の違いですよ。で、私も下の娘に、昔がどんな状況だったかを話すんですね。「40年代にはこんなことがあってね」と。そうすると、彼女はもうすっかりショックを受けるわけです。だってね、つまり、黒人の人たちが同じ学校に通わせてもらえなかったなんていうことはですよ、彼女にしてみると、まったくピンとこないんですね。さっぱり訳が分からない、という感じです。

if you look back 50 years ago 50年前を振り返ってみると・・・

ロジック

「信念は健在」と述べたことについて、その実績の例を挙げて説明してくれています。このように、「～年前は・・・」と過去を振り返ったり、過去を指し示したりする表現が来た場合は、過去のエピソード、実例を挙げて説明してくれる可能性があります。聞き取りのヒントにしましょう。

it's night and day 昼と夜ほどの差がある

慣用表現

「大きな違いがある」、「雲泥の差がある」ことを言うときの決まった言い方です。

the way things were 昔がどうい状況だったかということ

パターン表現

things は「状況、実情」という意味です。直訳的には「昔の状況のあり方」ということですが、the way things were で「昔がどんな状況だったか」、「昔の状況」という意味でよく使われます。これで一単語感覚でとらえられるように慣れておきましょう。

Something happened in the 1940s 1940年代にこれこれこういうことが起きた

やまと言葉 something happened は、文字通り「何かが起こった」ということではなく、something は、日本語ならば、「これこれ、なになに」という感じの、仮置き of something です。

to be astounded びっくりする

やまと言葉 to be surprised などよりも強く、「びっくり仰天する」感じです。

to get it 分かる

慣用句 to get it は「それ(=何かの意味合い、内容など)を得る (get)」ということですから、「分かる、理解できる」という意味で使われます。

It's like " ---- " それって、「～」という感じなんです

パターン構文 it は直前に述べたことを指します。「それって・・・」と、前に述べたことをさらに説明する感覚ですが、このときに、～like “(セリフ)” のかたちで、頭の中がどんな状態になっているかを具体的に描いて説明する言い方がよくされます。「それって、“----” みたいな感じなんですよ」、「それって“----”って感じなんですよ」のような感覚です。

So, that tells me that we've come a long way when today's children can't conceive of how it used to be.

ですから、今の子供たちが昔の状況について想像もできない、というのを見ていると、あぁ、ずいぶんよくなったんだなと思いますね。

So

ロジック 「努力をしてきた」ことを、自分の娘の「常識」と50年前の社会を比較し、変化を語ることで説明してきましたが、So, でまとめて結論に入りました。

that tells me (that) ... ~ということが分かる

慣用表現 that は直前に述べたこと全体を指し、ここでは、「自分の娘に1940年代の状況を話しても、“訳が分からない”という感じになる」を指します。that tells me .. は、直訳的には「それが私に～を伝える、～を教える」ですが、「(そこから)～ということが伝わってくる、～ということが分かる」という感じで使われます。

we've come a long way 随分と変わった、随分とよくなった

慣用表現 直訳的には「我々は長い道のりを来た」ということですが、過去と比較して、状況などが随分と変わってきた、変遷を遂げてきたことを言うときの決まった言い方です。

conceive of ... 想像する

やまと言葉 con-(共に) + -ceive(取る、抱く) から、「頭の中に思い浮かべる」がコアの意味です。そこから「想像する、(考えを)抱く、理解する」などの意味で使われます。

how it used to be

パターン表現 it は「状況」を意味します。how it used to be で、「かつて状況がどのようであったかということ」という名詞のかたまりで、これ全体で「昔の状況」、「以前の状況」、「かつての状況」のような意味でよく使われます。一単語感覚でとらえられるように慣れておきましょう。